

外国語教育メディア学会（L E T）関西支部中学高校授業研究部会・
京都教育大学英語の教え方研究会 主催

2018年度 12月例会のご案内

日 時： 2018年 12月 9日（日）13：30～17：00

会 場： 京都教育大学 CALL教室（1号館B棟4階）
（アクセスは<http://www.kyokyo-u.ac.jp/>から）

参加費： L E T会員・・・・・・・・・・・・・・・・無料
京都外国語大学より良い英語教育を考える会会員・・・300円
学生・・・200円
一般・・・500円

問い合わせ先： 西本有逸（京都教育大学） yuitsu@kyokyo-u.ac.jp
鈴木寿一（京都外国語大学） juichisuzuki0011@gmail.com

13：10～ 受付
13：30 開会

EFL だからこそ、○○が大事！

京都教育大学 西本有逸

「英語教育学が栄えて英語教育（実践）が減びる。」私の懸念のひとつです。第二言語習得研究や応用言語学の成果・知見はおおいに参考にすべきですが、それらが ESL に基づくものなのか、あるいは EFL なのかを見極める必要があります。この当然なことが、最近では蔑ろにされています。さて、標題の○○にはどのような言葉が入るでしょうか。参会のみなさんと考えたいと思います。

途中休憩

EFL 環境下における英語授業の特性とは：Teacher Talk と効果的な母語使用の関連

姫路大学教育学部 立花千尋

文科省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」という壮大なる改革案を示した。この実施計画は小・中・高等学校を通じて、英語教育全体を言語活動の重視や高度化により抜本的に充実を図ることをねらいとした。しかし、この計画案の実施に向けては、グローバル化の定義も明らかになされず、また目標設定を高くしただけであり、

それに伴う授業時数、教員数、クラス・サイズ、教員の指導力、教員研修等の教育条件は従来とほとんど変わらないままの実施となり、学校現場との乖離も予測される。少々無謀と言わざるを得ない改革ではなかろうか。文科省が教育条件において全く触れていない要素が「EFL 環境下での英語教育」である。このたびの英語教育改革で一層 ESL 型指導に傾斜しているように思われる。

本日の発表では、EFL 環境下での英語教育のあるべき姿を述べたいと思う。そのために、まず ESL と EFL の概念定義を行い、EFL の概念定義に応じ英語教育の在り方について述べる。そのポイントの一つは、英語授業において学習者の母語 (L1) の有効活用を行うことである。外国語教育における母語 (L1) 活用の先行研究の知見を述べ、EFL 環境での英語授業に適した母語 (L1) 活用の事例も提示したい。

また、最近、小学校英語教育で Small Talk とほぼ同義で用いられていると思われる「Teacher Talk」にたびたび遭遇するが、英語教育におけるテクニカル・タームとしての本来の定義を述べ、中・高等学校での「英語の授業は英語で行うことを基本とする」場合の Teacher Talk の活用と Teacher Talk としての母語 (L1) 活用について述べる。

17:00 閉会

会場までのアクセス：

1) 京阪電車利用の場合

- ・淀屋橋、天満橋、京橋からは、特急あるいは快速急行で丹波橋下車、普通あるいは準急電車に乗り換え、墨染駅下車 (所要時間約 40 分)。徒歩約 8 分。
- ・四条からは、普通あるいは準急電車で墨染駅下車 (所要時間約 15 分)。徒歩約 8 分。

2) JR 京都駅より JR 奈良線利用の場合

JR 京都駅で JR 奈良線に乗り換え、普通電車で JR 藤森駅下車 (乗車時間約 8 分)。徒歩約 3 分。

3) 奈良方面より近鉄電車利用の場合

西大寺にて快速または快速急行に乗り換え、丹波橋下車。京阪本線普通あるいは準急電車に乗り換え、墨染駅下車 (乗車時間約 40 分)。徒歩約 8 分。

お願い： 最近、メールアドレスを変更される方が増えておりますため、案内をお送りしても 100 名分以上が戻って来ます。今後、メールアドレスを変更される場合は juichisuzuki0011@gmail.com までお知らせください。

今後の予定：

3月23・24日 (土・日) 第25回中学高校教員のための英語教育セミナー
(キャンパスプラザ京都)